

# 面 談 記 録

担当課            国保健康課

件 名	地域医療等に関する逗葉医師会長と桐ケ谷市長の面談
日 時	平成 31 年 1 月 16 日（水）午前 11 時～午後 0 時
場 所	市役所 3 階 秘書室応接室
相手方出席者	逗葉医師会 池上会長、野口事務局長
市側出席者	桐ケ谷市長、須藤福祉部長、廣末国保健康課長
記 録 者	廣末 平成 31 年 1 月 17 日作成
面 談 内 容	<p>市 長：医師会との関係について、私の考えは 3 つである。まず地域医療に対して、医師会と市でどう協同步調をとっていかである。次が逗葉地域医療センターをどう運営するか。そして総合的の病院である。</p> <p>今まで医師会と行政がうまく動いていないように見受けられる。今までは今までとして、これからどのように回していけるのか、それぞれ担当部局とも話し合いながら進めたい。</p> <p>医師会：一次救急については、医師会で直接受けたいという考えであったが、前回の指定管理において市から公募の案内がなく、応募できなかった。また、在宅医療介護連携相談室について、県内ではどこも医師会で設置しており、逗葉地域についても医師会で担いたいと言ったが、逗子・葉山地区医療保健福祉対策協議会において、財団に設置することは協議済みであることから取り合ってもらえなかった。</p> <p>逗葉地域医療センターの運営については、現在、医師会からは理事長ほか 3 名の医師会員が理事となっており、その他歯科医師会、薬剤師会、市町行政職員で構成される理事会で物事を決定しているが、公益財団法人となった後は、行政主導の運営となり、医師会としての意見が通りにくくなった。</p> <p>これまで確かに良い協力関係とは言えないが、これからは事前にオープンで気軽にご相談いただければ、医師会としてできることは全面的にバックアップしていきたいし、それに対する医師会の意見も聞いていただき、協力関係を構築したいと思っている。</p>

# 面 談 記 録

担当課 国保健康課

市 長：これまでのことはこれまでとし、今後は新たなものを構築するというのが私の考えであるので、それに向けて庁内の調整を図っていく。今後に向けてお考えやご意見を聞きながらより良いものをつくるためにどう再構築するかということは、医師会との関係を築くことにつながる。その方向でやっていきたい。

病院については現在、病床数が得られておらず、その推移を見守るしかない状況となっている。今後、葬会にあいさつに伺う予定である。

医師会：病床数は計画上の計算であり、実際に病床を増やすことの必要性については、あくまでも地区の調整会議での地域におけるニーズの検討を最優先し、そこでの結論を基に決定されるものである。病床数が増やせるのかははっきりしない中で、いつまで待つのかをはっきりさせた方がよいと思う。

市 長：我々だけで判断することはできないので、医師会や関係機関等からのご意見なども伺いながら進めていきたい。

病院の件は相手のある事でもあるので、まだまだ時間もかかると思うが、地域医療や逗葉地域医療センターの課題等については、できることから解決に向けて進めていていただきたい。これからも協力関係のもとに、よろしく願います。

以 上

# 面 談 記 録

担当課 国保健康課

件 名	市長と逗子・葉山 地域医療を考える会との面談
日 時	平成 31 年 2 月 14 日（木）午前 10 時 33 分～午前 11 時 00 分
場 所	市役所 3 階 秘書室応接室
相手方出席者	逗子・葉山 地域医療を考える会 鯨岡代表、ほか会員 4 名
市側出席者	桐ヶ谷市長、須藤福祉部長、廣末国保健康課長、西海副主幹
記 録 者	西海 平成 31 年 2 月 14 日作成
面 談 内 容	<p>（逗子・葉山 地域医療を考える会 鯨岡代表より市長との面談希望があったもの。）</p> <p>市 長：貴会の活動内容についてお聞かせ願いたい。</p> <p>相手方：2003 年から延命治療に対する疑問から始まり、ホスピスの勉強ををはじめ、自宅に住み続けながら最期を迎える在宅ホスピスのことを知った。市内には、24 時間体制の訪問看護ステーションがあるが、市も医師会も広報してくれないので、自ら医療現場を調べ、独自に「医療べんり帳」を作成したり、在宅医療のシンポジウムを開催するなど地域医療に関する様々な活動を行っている。また、全国の同様な団体とのネットワークもある。現在会員は 50 名前後いる。</p> <p>普通の市民は、地域には医療に関する様々な資源があることを知らないのに、市は病院を誘致しようとしている。</p> <p>市 長：以前、貴会が開催した救急の講座には、多くの参加者があった。</p> <p>相手方：訪問看護や救急など地域の医療資源のことを知らない人が多いので、もっと広報してほしい。それをしないと、病院に対する市民の要望を聞いても間違った結果になると思う。</p> <p>また、情報公開オンブズマンの付言があったが、会議等の記録作成の際には、音声の記録もとるようにしてほしい。市民の中には、大切なことを記載していないのではないかという憶測が流れており、市民との信頼関係構築のためにも希望する。</p> <p>市 長：大臣や首長の発言がニュースになっているが、我々も注意しないといけないので、必要なことだと思う。</p>

# 面 談 記 録

担当課 国保健康課

相手方：本題に入る。病院に関しては次のことを要望する。

① 正確な情報が入ってこないと感じる。一般の市民は情報が無いため病院が欲しいというが、地域の医療資源を含め、情報をきちんと市民に知らせてほしい。

② 一昨年からの誘致の経緯、特に都市計画のことについて検証してほしい。また、検証結果について市長が各自治会を説明して回るなど、丁寧に対応してほしい。

③ 次の理由から葬会については、コンプライアンスの問題もあり、不信感を持っている。

- ・検討会において市民のための病院を造ると一度も言わなかった。

- ・図面における産婦人科の配置について、女性に対する配慮がなかった。

- ・県の開設許可申請書について誤字脱字等ずさんな書類であった。

- ・横浜南共済病院との重点的関連病院の件について、選考の際の聞き取り調査では南共済に医師を研修に行かせると言っていたが、検討会では「逗子市を釣るため。」と発言しており、市に間違った情報を流した。

市長：病院誘致は大きい問題と思っている。医師会からは頻繁に意見を伺っている。やり方を間違えないようにあらゆる人に意見を聞き、現場を重視し、最後には自分で判断したい。

また、前市長が取り下げた都市計画の事前相談については、地区計画が策定されれば病院しか建設できなくなるという話があったが、当該用地については市の考えのみで地区計画を変更できるので、改めて3月を目途に申請する。

相手方：検討会では300床が前提であったが、現状では300床の確保は無理ではないか？

市長：300床より少なくとも開設する予定はある。

相手方：109床の開設許可が下りてから時間が経っている。今後は109、200、300と分けて検討する必要があるのではないか？

# 面 談 記 録

担当課 国保健康課

	<p>市 長：市が求める病院機能には、ある程度の病床数は必要であり、経営上の判断もあるので病床の関係は難しいところである。</p> <p>相手方：300床の見込みがない中で300床規模の建物を建てるのはやめてほしい。</p> <p>市 長：市有地に建てるので、市がきちんと介在していく必要はある。</p> <p>ところで、在宅ホスピスは理想である。一方で家族のサポートが必要だと思うが、どうされているのか？</p> <p>相手方：家族の熱意も必要であるが、今は訪問看護等、介護度により家族を助けるシステムがあり、逗子には在宅医を標榜している診療所も多い。今は在宅医療の多職種連携会議も行っており、参加している逗子市の職員もすばらしい。逗子モデルとしてできるのではないか？</p> <p>逗子では老衰で亡くなる人が30%と多い。高齢者が集える場所の確保をお願いしたい。使用料を安く、空き家などを利用できないか？</p> <p>市 長：逗子市と比べて葉山町の医療費が少ない。高齢者が元気で医療費が少なければ、本人も市もハッピーである。1日の平均歩数が増えると医療費が下がるという統計もあり、商店街なども含めて何かやる必要があると思っている。</p> <p>今後もよろしく願います。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	--

# 面 談 記 録

担当課 福祉部 国保健康課

件 名	地域医療等に関する逗葉歯科医師会長と桐ヶ谷市長の面談
日 時	平成 31 年 2 月 14 日（木） 午前 11 時 05 分～12 時 00 分
場 所	市役所 3 階 秘書室応接室
相手方出席者	逗葉歯科医師会 沼田会長
市側出席者	桐ヶ谷市長、須藤福祉部長、廣末国保健康課長、西海副主幹
記 録 者	西海 平成 31 年 2 月 14 日作成
面 談 内 容	<p>市 側：地域医療等に関する歯科医師会の意見をお伺いするため、今回ご足労いただいた。三師会の関係などはいかがか？医師会からは財団の運営や在宅医療・介護連携相談室等について不満の声が聞こえている。</p> <p>相手方：協力し合って比較的うまくいっている。逗葉地域には公益財団法人逗葉地域医療センターがあるが、この形態はおそらく日本に一つしかない。先人が英知を出し合い今の形になった。言われるように医師会からは不満の声は聞く。</p> <p>市 側：これまで医師会と話す機会があったが、今後は歯科医師会や薬剤師会等他の団体の意見もよく聞いていきたい。病院誘致については、病床の問題はあるが、地区計画の事前相談を改めて申請するなど、市としてやるべきことはやる。</p> <p>相手方：私も県の三浦半島地区保健医療福祉推進会議や市の検討会にも出席しているが、そこでの私の発言は歯科医師会理事会の承認を得て言っているものである。</p> <p>逗子・葉山地区医療保健福祉対策協議会小委員会では平成 23、24 年度の 2 年間は災害をテーマに協議し、座長も経験した。逗子には総合的病院が無いことから、災害時に D M A T が活動する拠点となる病院が無いので、この地域の住民の危険性は高いと考える。</p> <p>また、うわまち病院も久里浜に移転し逗子から離れると平均搬送時間が更に延びるため、総合的病院はこの地域には必要である。</p> <p>なお、この地域においても様々な疾患の患者がいるので、総合的病院には地域の歯科医と連携できる専門性の高い口腔外科が必要である。</p> <p>病院誘致の検討会では、会議の本質とは関係のない話を会議冒頭に延々と発言する者や傍聴者から野次や</p>

# 面 談 記 録

担当課 福祉部 国保健康課

	<p>罵声があがるなど、意見を自由に言える雰囲気ではない。事務局である市がしっかりとコントロールすべきである。</p> <p>葬会については、24床で救急はできるのか、建物はできたが老人ホームのような病院になってしまわないかなど心配な部分がある。医師の数を揃えるにあたり期限を切るなど、公募条件が達成できない場合にどうするか考えることも必要ではないかと考える。</p> <p>市側：市の土地を無償で使用させるので、市の考えは反映してもらいたいと考える。</p> <p>相手方：財政再建が急務の中、無償で貸す説明はできるのか？財団の一次救急とうまくコラボレーションすれば、ある程度の救急を行うことは可能ではないかと思うので、財団のウエイトを行政はよく考えて進めていく必要がある。</p> <p>市側：三師会を含め多方面からの意見を聞いたうえでしっかり判断し、葬会とは交渉していきたい。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	---

# 面 談 記 録

担当課 福祉部 国保健康課

件 名	市長と逗葉薬剤師会長との面談
日 時	平成 31 年 2 月 15 日（金） 午後 1 時 35 分～ 2 時 25 分
場 所	市役所 3 階 秘書室応接室
相手方出席者	逗葉薬剤師会 中村会長
市側出席者	桐ヶ谷市長、須藤福祉部長、廣末国保健康課長、西海副主幹
記 録 者	西海 平成 31 年 2 月 15 日作成
面 談 内 容	<p>市 側：三師会に公平に意見を聞くことが重要との考えからご足労いただいた。忌憚ない話を伺ったうえで、皆さんが気持ちよく仕事ができる下地を作っていきたい。</p> <p>病院は病床数が増えない中で、対応を私の考え一つで決めることはできない。葬会を不信に思い、市有地の無償貸与に反対している人もいれば、平井前市長を支持してきた人もあり、今は色々な意見や考えを聞いている。</p> <p>相手方：市民のためにより良い病院を私達も望んでいる。今の葬会には不信もあるが、市長の考えに賛成である。</p> <p>市 側：七沢リハビリテーション病院や川崎の医療ツーリズムの問題で、市民は葬会に対する見方が変わってきてしまっている。</p> <p>貴会の運営に関するお考えをお聞かせ願いたい。</p> <p>相手方：当会の規模は小さく、法人格も持ってはいないが、近々法人化しないといけないと思っている。今一番の課題は財政で、ここ数年赤字が続いている。この地域の医療を守るため、薬剤師会独自に災害時における市町分の医療用医薬品の備蓄を行っている。</p> <p>市 側：金額的にはどの程度か？</p> <p>相手方：80 万円程度であるが、これでも少ないと考えている。</p> <p>市 側：どのように備蓄しているのか？</p> <p>相手方：主要な薬剤を中心に備蓄している。これとは別に薬局の在庫を持ち出すことも想定しているが、もう少し備蓄分を充実させたいと考えている。</p> <p>市 側：備蓄場所はどこか？</p> <p>相手方：逗子市の分は医療センターの 2 階、葉山町の分は当薬局の倉庫にある。津波で被害に遭う薬局も多いと想定され、市町の支援が必要である。備蓄している薬品は、</p>



# 面 談 記 録

担当課 福祉部 国保健康課

使用期限が切れる前に、会員に買い取ってもらっている。会員に買い取ってもらうにしても、通常より使用期限が短いことから安く譲り渡すしかなく、その分は当会の負担となっていることから、市町にはその分を支援願いたい。

市 側：市でも医療資機材とともに医薬品を備蓄しているが、法的に期限が切れたものは廃棄処分にせざるを得なく残念である。

ところで、財団の運営等についてはいかがか？

相手方：市と医師会の関係もあり、色々なことがあったが、桐ヶ谷市長になり、医師会とはうまくやっけていかれることと思っている。

市 側：話し合いの機会が増えると良くなっていくと思う。必要があれば、貴会の会合にも伺うので、声をかけていただきたい。腹を割って話し合い、財政が厳しくても皆さんとともに良いまちにしたいと思っている。

相手方：交付金の一律カットもあったが、法人化にあたっては、市町からの支援は必要である。今後もお願いしたい。

市 側：了解した。本市も税収を増やすために企業誘致なども考えているが、すぐには難しい。

ほかに何か課題はあるか？

相手方：薬剤師の従業員を集めるのに苦労している。新卒は大手に就職してしまうので、資格を持った主婦が復帰して安心して働くことができる職場を目指している。

市 側：会員は店舗で入るのか？個人として入るのか？

相手方：個人で入ってもらう。現在、34 薬局 60 人の会員がいる。勤務の薬剤師が多いので、高い会費をとることができず、財政が苦しい一因でもある。

市 側：今後もよろしく願いたい。

以 上

# 面 談 記 録

担当課 福祉部 国保健康課

件 名	医療法人社団葵会 新谷理事長と桐ヶ谷市長の面談
日 時	平成 31 年 2 月 15 日（金）午後 2 時 55 分～3 時 30 分
場 所	市役所 3 階 秘書室応接室
相手方出席者	医療法人社団葵会 新谷理事長
市側出席者	桐ヶ谷市長、柏村副市長、須藤福祉部長、廣末国保健康課長
記 録 者	国保健康課 廣末 平成 31 年 2 月 18 日作成
面 談 内 容	<p>市 長：もっと早くお会いしたかったが、なかなか日程調整がつかなかった。本来であればこちらからご挨拶に伺うべきところを理事長からお越しいただき感謝申し上げます。</p> <p>理事長：市長に就任されて非常にお忙しいことと思い、こちらからお伺いした。</p> <p>市 長：多くの医療施設等を経営されていると、医療機器の設備更新などに多額の費用がかかるのではないか。</p> <p>理事長：がん関係の医療機器だと 1 台で 4 億程度かかるものもあるが、患者さんのために必要なものは更新していかななくてはならない。</p> <p>市 長：病院にかかる現在の状況としては、県の基準病床数の見直しの検討における病床数の変更はなさそうである。病床数については、我々も待たざるを得ない立場にある。 また、昨年 12 月の市長選挙の前に前市長が、都市計画手続きにおける地区計画の県との事前相談申請を取り下げていたが、市としてやるべきことはやっていくので、改めて申請し、進める予定である。</p> <p>理事長：病床等難しい状況は理解する。我々も以前と変わらずやっていきたいと思っているので、よろしく願います。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

## 平成 31 年度 基準病床数について（横須賀・三浦地域）

31  
平成 30 年 2 月 5 日現在  
神奈川県

## 1 これまでの経緯

第 7 次神奈川県保健医療計画の策定にあたり、各地域の地域医療構想調整会議などで議論を重ね、国との協議などを経て基準病床数を策定した。

基準病床数については計画期間の中間年である 2020 年に見直しを検討するほか、必要病床数と既存病床数の乖離が県内でも特に大きい（＝医療需要が増加することが見込まれる（横浜、川崎北部、横須賀・三浦）地域は、将来に与える影響が大きいことから、地域の意向も踏まえ、毎年度、最新の人口と病床利用率により再計算した結果を見た上で、地域の医療提供体制の現状等を踏まえて、基準病床数について検討することとした。

## 2 試算結果

最新の人口（平成 30 年 1 月 1 日現在）と平成 29 年度病床機能報告における病床利用率を使用して試算した横須賀・三浦地域の基準病床数は以下のとおり。

	既存病床数 (H30. 4. 1) ①	第 7 次計画 基準病床数 (当初) (H30. 4. 1) ②	① - ②	第 7 次計画 基準病床数 (試算) (H31. 4. 1) ③	② - ③
横須賀・三浦	5, 285	5, 307	△22	5, 442	△135

※ 人口と病床利用率以外は、第 7 次計画基準病床数算定時と同じ数字を使用

## 3 地域での協議について

○10 月 23 日

第 3 回三浦半島地区保健医療福祉推進会議で試算結果を提示

○12 月 18 日

三浦半島地区保健医療福祉推進会議ワーキンググループで基準病床数について協議。  
見直しについて、参加者で多数決を実施。

## ■多数決の結果（参加機関 25）

- A 基準病床数を見直した方がよい。・・・ 7 機関  
B 現行のままでよい。・・・ 18 機関

## ■ワーキンググループ参加者からの主な意見

- ・休棟中の病床のうち、200 床以上が回復期への再開を見込んでいる。休棟中の病床が稼働すれば 135 床の整備は必要ないのではないか。
- ・昨年、基準病床数を設定した時には、医療従事者の確保が出来ないため、大幅な増が出来

ないという課題があったが、今回も同じ結論になるのではないか。

- ・横須賀・三浦地域では高度急性期の病院に患者が集中しており、回復期・慢性期などのポストアキュート機能がある程度整備されていないと、患者の行き場がなくなってしまう。SCRを見るに、この地域では回復期が50%程度なので、現状として地域では足りていないのではないか。
- ・休棟病床は、一定年数使われていない病床は強制的に返還させるなどしないと、新しい病床や計画が認められない状態が続いてしまうのではないか。
- ・なぜ休棟せざるを得ないか議論する必要がある。
- ・些末な理由で休棟しているところは返却した方がよい。

#### 4 今後のスケジュール

- 2019年2月5日：第3回地域医療構想調整会議

##### 地域の意見の最終確認

- 2019年3月（※基準病床数を変更する場合）
  - ・第3回県保健医療計画推進会議…保健医療計画（基準病床数部分）変更（案）確定
  - ・第2回県医療審議会…保健医療計画（基準病床数部分）変更（案）について諮問・答申
  - ・保健医療計画（基準病床数部分）確定

～来年度以降～

- 2019年9月頃
  - ・県保健医療計画推進会議において、平成32年度の基準病床試算結果を提示予定
- 2019年10月～2020年1月頃
  - ・各地域で基準病床数について協議
- 2020年2～3月頃（※基準病床数を変更する場合）
  - ・県保健医療計画推進会議…保健医療計画（基準病床数部分）変更（案）確定
  - ・県医療審議会…保健医療計画（基準病床数部分）変更（案）について諮問・答申
  - ・保健医療計画（基準病床数部分）確定

ご意見シートによる市民からの意見（概要） （11月1日～2月28日分）

1件

- (1)・病院誘致への意見がいつも賛成・反対の二つの単純なくくりで分けられてしまい、意見も簡単に集約されてしまっておりきちんと市民の声が反映されていないと感じている。（件数も1人1件とおかしな分け方をしているし、賛成でも反対でもなさそうな意見が勝手に賛成に振り分けられていたりする。集計結果の改ざんとも取れてしまう。）下記のリンクは神奈川県教育に関する市民の声をまとめたものであるが、この程度の工夫は凝らしてもよいのではないか？改善を望む。

[http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/life/453333\\_745015\\_misc.pdf](http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/life/453333_745015_misc.pdf)

※意見内容ごとに賛成！反対！ではなくA～Dに伏せられ分けられている。

※トピックスごとにア～ケに分けて集計されている。